



新任の御挨拶

広報委員長 土生田 政之

本年10月12日に開催された理事会において、東京に転勤された阿部征二前委員長の後任として広報委員長を仰せつかりました。私が仙台に赴任して既に5年以上が経過しましたが、協会活動はこの4月に監事をお引き受けするまで正直な所ほとんど経験は有りませんでした。したがって、今回のお話も当初は戸惑いが多く固辞したい気分が支配的でしたが、これもこの業界でお世話になっている者として欠く事の出来ない務めであろうとお引き受けする事にいたしました。当委員会の活動内容の重要性と責任の大きさは前任者からの引継ぎ時にあらためて認識させられ、ややもすればプレッシャーで押しつぶされそうになるのですが私を支えてくれるスタッフがいずれもベテラン揃いなのでまずは一安心と言った所です。

さて、広報とは文字どおり協会の存在、活動内容を内外に広く報ずる事に他なりません。協会の内(主に協会員)外(主に発注者)への広報活動の手段として広報誌『大地』の果たしてきた役割が極めて大きいのは大方の皆さんの異論の無い所であろうかと思えます。この意味において『大地』の編集・発行が今後も広報委員会の具体的な活動の大きな柱となるのはこれまでとは変わりません。しかし、『大地』も記念すべき第一号発行から既に約10年が経ち、そろそろ内容を見直すべき時期になってきております。これまで継続して編集・発行の任に当たってこられた担当の方々には心よりの敬意を表しつつ、私の就任最初の仕事として新世紀を一步先取りする形で今回号からとりあえず製本のスタイルをリニューアルする事にいたしました。いずれアンケート等で読者の皆さんの御意見・御感想・御要望をお伺いし、掲載内容についても常に時代感覚にマッチした上で読みやすく、かつ実務的にも役に立つ物としたいと思っています。会員の皆さんの御支援・御協力を宜しくお願い申し上げます。

一方、受注環境が激変する中、我が業界の社会的な地位、認知度をより一層向上させるためには広報活動はもちろんのこと協会活動そのものも当然のことながら時代の要請に応えながら変わっていかねばなりません。この様な観点から次年度以降の協会活動の在り方を原点に戻って検討する為に既設の各委員会の選抜メンバーと若手技術者、女性の混成による"活動検討委員会"を立ち上げました。同委員会は来年3月までを目処としたいわば時限立法的なプロジェクトチームですが、そちらの委員長も持って生まれた無鉄砲でお引き受けする事に成りました。検討すべき内容は多岐に亙っており、浅学非才にして経験の乏しい私には極めて重いものでありますが同委員会の方も微力ながら精一杯務めさせて頂くつもりです。今一度重ねて皆様方の御助言・御指導・御協力を賜らん事を切にお願いし新任の御挨拶とさせていただきます。